

令和6年度「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)」に対する 文部科学大臣表彰について

杉並区立図書館及び富士見丘小学校が、令和6年度「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰」に選出されたので、以下のとおり報告する。

1 選出された取組

(杉並区立図書館)

平成15年度の「杉並区子ども読書活動推進計画」策定後、5回の改定を経て、現計画のもとで子どもの読書活動推進に向けた取組を進めている。

杉並区立図書館では、中央図書館を中心に、区内13館において学校図書館や保健センターなど他機関との連携を図りながら、各世代に向けた取組を堅実に重ねており、成長段階に応じて子どもが主体的に読書に親しむ環境づくりを行っている。

(富士見丘小学校)

教育課程と関連付けた学校図書館年間活用計画等を踏まえ、学校図書館チーム(主幹教諭・司書教諭・学校司書)がリーダーシップを執り、様々な読書活動の手法を取り入れ、区内小学校のトップの学校図書館貸出冊数を誇る。6年間を見通した読書指導を行い、児童に読ませたい本150冊のコーナー設置や読書記録記入など、読書の質的向上にも地道に努力を重ねている。図書委員会の児童の主体的な発案や活動も非常に効果的である。

2 取組の具体例

(杉並区立図書館)

- 平成14年度から開始したブックスタート事業を継続していることに加え、フォローアップ事業へと拡大している。この様な乳幼児親子に向けた取組を、地域ボランティアと連携しながら行っている。
- 図書館職員が小学校に出向き、新1年生に図書館の紹介や読み聞かせを実施し、児童向け図書館案内やブックリスト入りのバッグを配付して図書館利用の促進を図っている。また、学校図書館に対し、調べ学習の支援を行っている。
- YA(ヤングアダルト)コーナー等を設置して中学生・高校生世代に対するサービス充実に向けた取組などを行っている。

(富士見丘小学校)

- 「オススメブックリストの作成・配布」

絵本から読み物本(物語)への移行がむずかしい児童がいる実態を踏まえ、楽しい幼年文学を20冊選書し「オススメブックリスト」を作成・配布。学校図書館チーム・児童の図書委員会が共に活動し、いつも絵本しか手に取らない児童が、物語の本を手に取り、表情豊かに本の世界に入り込む姿が見られた。

○「本の福袋」

日常的にあまり貸出のない本を中心に、本が一冊入った福袋を低学年・中学年・高学年用に分けて全校児童数以上(450冊)用意し、入っていた本を最後まで読んだ児童には図書委員会児童作成の葉をプレゼントした。福袋に入っていた本と同じ作者の本を借りる児童が増え、読書の幅が広がった。

○その他の様々な読書活動

「味見読書」「子どもたちの読書リレー『ほんちゃんプロジェクト』の実施」「本の福袋」「『この本だいす木』の掲示」「給食献立とのコラボレーション」「おすすめの本 150冊の奨励」「校長や図書委員児童による絵本読み聞かせ」「教職員のおすすめの本の掲示」「各児童の一人一台タブレット端末から本の予約」など

3 参考

○子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)表彰要項

この要項は、子供が、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものである読書活動の一層の推進に資するため、国民の間に広く子供の読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において特色ある優れた実践を行っている学校等に対し、その実践をたたえ文部科学大臣が行う表彰に関して必要な事項を定めるものとする。(趣旨より)

○杉並区ではこれまでに、平成 19 年度和田中学校、平成 20 年度松溪中学校、平成 27 年度井荻中学校、令和 5 年度松溪中学校が表彰されている。